# Project Euler 88. Product-sum Numbers

#### hiragn

#### 2024年12月27日

### 1. 問題の概要

 $k \ (\ge 2)$  個の自然数  $a_1, a_2, \cdots, a_k$  の集合の和かつ積として表せる自然数 n を積和数と呼ぶ。

$$n = a_1 + a_2 + \dots + a_k = a_1 \times a_2 \times \dots \times a_k$$

たとえば  $6=1+2+3=1\times2\times3$  より 6 は積和数である。 ある集合の大きさ k に対してこの性質をもつ最小の n を最小積和数と呼ぼう。 k=2,3,4,5,6 に対する最小積和数は次のようになる。

- $k = 2 : 4 (= 2 \times 2 = 2 + 2)$
- $k = 3: 6 (= 1 \times 2 \times 3 = 1 + 2 + 3)$
- $k = 4 : 8 (= 1 \times 1 \times 2 \times 4 = 1 + 1 + 2 + 4)$
- $k = 5: 8 (= 1 \times 1 \times 2 \times 2 \times 2 = 1 + 1 + 2 + 2 + 2)$
- $k = 6: 12 (= 1 \times 1 \times 1 \times 1 \times 2 \times 6 = 1 + 1 + 1 + 1 + 2 + 6)$

 $2 \le k \le 6$  に対するすべての最小積和数の和は 4+6+8+12=30 である。8 は和に一回だけカウントされる。

 $2 \le k \le 12$  に対する最小積和数の集合は  $\{4,6,8,12,15,16\}$  であり,その和は 61 である。 $2 \le k \le 12,000$  に対する最小積和数の集合の和を求めよ。

https://projecteuler.net/problem=88

### 2. *n* と *k* の関係

「同じ個数の自然数の積と和が一致」は一見厳しい条件に思えますが、適当に 1 を補うことで実現できます。たとえば n=pq (p, q は 2 以上の自然数)は次のように分解できます。

1. 積と和の差だけ +1 を補う

$$n = p \times q = p + q + \underbrace{1 + 1 + \dots + 1}_{pq - p - q} \underbrace{}_{pq}$$

2. 積の方に×1を必要なだけ補う

これを一般化します。2 以上の自然数だけを使って  $n=b_1\times b_2\times\cdots\times b_l$   $(b_i\geq 2)$  と書けるとき,k は次のようにして求められます。

$$k = \left(n - \sum_{i} b_{i}\right) + l = n - \sum_{i}^{l} b_{i} + l \quad \cdots$$

実際に計算してみましょう。  $n=2\times 6=3\times 4=2\times 2\times 3$  に対応する k を順に  $k_1, k_2, k_3$  とします。

$$k_1 = 12 - (2+6) + 2 = 6$$
  
 $k_2 = 12 - (3+4) + 2 = 7$   
 $k_3 = 12 - (2+2+3) + 3 = 8$ 

## 3. *n* の上限をおさえる

以下,kの最小積和数をmps(k)であらわします。 $^{*1}$ 

これは k を与える n の最小値なので①をみたす (n, k) を 1 つ見つければ、 $\operatorname{mps}(k)$  を上から評価できます。

①をみたす例は簡単に作ることができて、 $n=2\times k$  のとき l=2 なので①が成立します。

(右辺) = 
$$2k - (2 + k) + 2 = k = (左辺)$$

 ${\sf mps}(k) \le 2k$  が言えました。たとえば  $2 \le k \le 6$  に対する  ${\sf mps}(k)$  を求めるには n=12 まで調べれば十分です。

<sup>\*1</sup> mps は minimal product-sum number (最小積和数) の略。

## 4. コードを書く

これで解答の方針が立ちました。

- 1. n=4 から  $n=2\times k_{\max}$  までの数を 2 以上の数の積に分解する
- 2. 各分解に対応する k を求める
- 3. k ごとに最小の n を求めて和を計算

積への分解は Ordered and Unordered Factorizations of Integers という pdf が参考になりました。5ページの OrderedFactorizations と DistinctOrderedFactorizations をもとにコードを書きました。\*2

```
1 In[]:= Clear["Global'*"];
2 RepeatedTiming[
   kmax = 12*10^3;
   (* nを積に分解したリストを作る *)
  tbl[1] = {{}};
6
   tbl[n_?PrimeQ] := tbl[n] = \{\{n\}\};
   tbl[n] := tbl[n] = Module[{lst}],
      lst = Function[{d}, Append[#, d] & /@ tbl[n/d]] /@ Rest@Divisors@n;
9
      lst = Flatten[lst, 1];
10
      DeleteCases[lst, Null];
11
      DeleteDuplicates[Sort /@ 1st]];
12
13
    (* n の分解から k を求める *)
   calc[lst_] := Times @@ lst - Total@lst + Length@lst;
15
16
  (* 最小積和数 *)
17
   mps[i_] := mps[i] = 2 i;
   Do[If[i < mps@#, mps@# = i] & /@ (calc /@ tbl@i), \{i, 4, 2*kmax\}];
19
   ans = Total@DeleteDuplicates[mps /@ Range[2, kmax]]]
20
21
22 Out[]= {1.07915, 7587457}
```

<sup>\*2</sup> https://www.reed.edu/physics/faculty/wheeler/documents/Quantum%20Mechanics/Miscellaneous%20Essays/Partitions%20&%20Separability/Factorizations.pdf